

## 平成26年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	多久市立中央中学校		
2 所在地	多久市南多久町大字下多久2286-13		
3 校長名	太田 春美		
4 学級数	12学級	5 実施学年	1年
生徒数	328人	生徒数	99人

### 6 取組のねらい

・これまで「命・福祉」をテーマとして総合的な学習の時間をすすめてきた。命には有限性がある。だからこそ「今」を大切に生きていかなければならない。このことは「いのちの授業」等を通して事前に学んでいる。

では、「ただ生きるのではなく、皆がよりよく生きるためにはどうすればよいだろうか。」について「福祉」の観点で深化させることをねらいとして「ユニバーサルデザイン」を学習教材として取り入れた。

### 7 取組の実際

#### 【1学期】「ユニバーサルデザイン」について

「ユニバーサルデザイン」について学習した。一部の生徒は小学校で一度ユニバーサルデザインの学習をしているが、ほとんどが知らない生徒ばかりであった。パワーポイントでユニバーサルデザインの目的と実際に使用されている日頃われわれが目にするサービスの例を紹介した。後日、生徒たちに自分自身で考えたアイデアユニバーサルデザインを募集した。

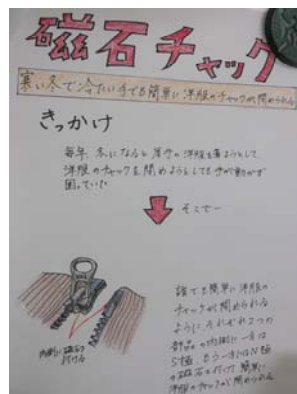
生徒たちは、「どうやったら、みんなが便利で、使いやすいと思えるのか」を念頭に置いてアイデアを出し合い、82点の応募があった。

作品の中には実用化されたら便利であろうと思われるものもあり、「つかみやすいおはし」「簡単に開けられる栓抜き」「ワンプッシュ爪切り」「磁石チャック」の4点を「佐賀県こどもUD作品コンクール」に出品した。

中央校にもいろいろなユニバーサルデザインがあることを紹介しました。



#### 生徒のアイデアユニバーサルデザイン



## 【2学期】「困り感について学ぼう～こころのユニバーサルデザイン～」

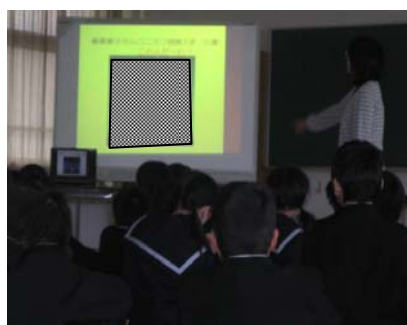
1学期に「物・サービス」に関するユニバーサルデザインを学習した。2学期は、心もみんなと分かち合える、思いやりにみちた真の共生社会をめざした「心のユニバーサルデザイン」というタイトルで、困り感をもつ生徒のことを考える授業を行った。すでに多久市立中央中学校では、あらゆる教科・領域で生徒の障がいのあるなしに関わらず、すべての生徒のための教育「=インクルーシブ教育」を実践している。また、「障がい」を「特性」といったとらえ方で生徒たちに理解を促している。

ところが、生徒の中には「困り感」をもつ生徒を蔑視する傾向が残念ながらある。そこで、総合の授業で、「困り感」＝「苦手なこと」ということを生徒に踏まえさせ、実践方法として額にあてた紙に利き手でない手で自分の名前を書かせ、「がんばっても苦手なことがある。苦手なことは、人によって違う。」ことを体験させた。

さらに、その苦手なことの違いが脳の構造に起因することを説明した。脳の構造をたんすの引き出しに例え、引き出しにはうまく引き出せない部分もあり、それが例えば人によっては「読み書きの部分」であったりすることを伝えた。引き出しにくい場合は、「困り感」となって、うまく機能しないことを説明した。また、有名人(映画スター、歴史上の人物、科学者)にも「困り感」を持つ人が多くいて、幼少時は大変苦労したことなどを知って大変驚いた模様である。

授業を通して、「困り感」が「親のしつけ不足」や「本人の努力が足りない」ことなどが原因でないことを理解したようである。

「困り感」(LD、多動症、自閉症)などをもつ有名人を紹介。「えっ、あんなすごい人が」と、驚きの声をあげていた。



## 8 取組の成果と課題

### 取り組みの成果

・今年度の総合の時間は「命・福祉」を柱として学習をすすめてきた。修学旅行では「いのちのたび博物館」で多種多様な生命の共存共栄を学習し、文化発表会では特攻隊の劇を演じ、「命」の尊さを表現した。

総合的な学習の時間に、よりよく生きるために必要なことについて学習したことにより、お互いを認め合い、友だち一人一人の悩みに目を向けようとする生徒が育ちつつある。

・このユニバーサルデザインの学習により、障がいのある友だちが、どのような「困り感」があるかを身近な問題として考えることができるようになった。

・「困り感について学ぼう」を学習後、生徒に感想文を書かせたところ、「僕も耳が聞こえにくい」という「困り感」を訴えた生徒が一名いた。次のような内容である。

「ぼくも、もともと耳が悪いから、目で人の口の動きを見て会話の内容を読み取っていました。今も少し聞こえないから困っています。でも、音を大きくしたら聞こえる。普段の勉強や友だちと話しているときとか、あんまり聞こえないから苦労しています。この耳が治ったら何でも聞きたいと思っています。」

通常学級在籍で特別支援を要する生徒ではなく、難聴の報告を受けてたわけでもなかったので大変驚いた。(学校の聴覚検査では異常がなかった)そのため、直ちに養護教諭と担任、保護者に知らせた結果、以前に中耳炎の手術を行い、少し聞こえが悪いとのことを保護者から報告を受けた。その後、教室の席などの配慮を行うようにし、経過を観察している。この授業がなかったら、生徒の「困り感」を受け止めることや手立てを見過ごしていたと思われるので、本当によいきっかけとなった。

### 課題

・「すべての人が生きやすい世の中に」ということを学んだが、今後は学んだことを生徒にどのような形で実践させていくのかが課題である。学校行事や生徒会活動など、実践の場を多く取り入れることで充実を図りたい。また、ユニバーサルデザイン教育の実践を今後も継続させていくために、活動内容の見直しや地域との連携をはかるなど、さまざまな手立てを講じなければならない。

・今回の授業は、ユニバーサルデザインについてのきっかけづくりであった。

このきっかけをさらに発展・充実させるために、専門家による講演や実演を通して学び、身近な地域にあるユニバーサルデザインについても3学期に調べ学習を行う予定である。